

## 目 次

### 自然再生, 自然景観 特集

3	巻頭言	自然再生の今後の展望	島谷 幸宏
4	行政情報	生物多様性条約における民間参画への取組と期待	大澤 隆文・小山内勇人
9	行政情報	『自然再生士』資格制度と生物多様性の保全推進 生物多様性の保全推進を、いかに地域の産業、人の活性化につなげるか	藤井 孝信
15		皆ですぐできるウナギ保護再生策	柵瀬 信夫
20		質の高い都市緑地を創出するための設計に関する技術開発 緑地の生き物と鳥類を指標種とする生息地評価モデル	杉本 英夫・松原 隆志
27		汚染された腐葉土層等を効果的・限定的に除去 SC クリーンシステムの開発	小野 健一
33		生物多様性評価ツールの開発と展開 「いきものプラス <sup>®</sup> 」生物多様性配慮に考慮した緑化計画を支援	青木 貴均・池田 穰
37		サンゴ礁州島形成メカニズムの解明 サンゴ礁の維持保全へ貢献できるモデルを目指して	片山 裕之・茅根 創・田島 芳満
43		生態系との共存を実現する「多摩ニュータウン東山」での街づくり	石 隆幸
48		大山ダムホテルビオトープの JHEP 認証取得 ホテル生息環境の再生・創出とその定量的評価方法の構築	佐々木静郎・門倉 伸行・佐藤 伸彦
55		水中騒音振動監視システムによる水産資源の保全 水域の施工における周辺環境への配慮	田中ゆう子
60		日本万国博覧会記念公園の 40 年間にわたる自然再生の取組み 自立した森づくり	千原 裕
65		生物多様性の簡易評価ツール「いきものコンシェルジュ」の開発	内池 智広
70		生物多様性の保全・普及への取り組み 生物多様性簡易評価ツール CSET・BSET	金内 敦・加藤 晃敏
77		歴史的文化財の景観復元への取り組み 連続繊維補強土工を適用した歴史的な文化財での斜面災害復旧事例	宇次原雅之
83		高速道路緑化と生物多様性の取り組み	伊藤 賢一
89		都市鳥類の生息モデルに基づいた緑地計画技術	北野 雅人・深谷 肇一
95	交流の広場	急速充電対応型電池推進船の開発 らいちょう	清水 悦郎
101	ずいそう	大型設備投資 (ショットプラストマシン) に寄せる思い	山鳥喜久雄
103	ずいそう	40 年前の想いで	須貝 憲宏
105	JCMA 報告	平成 27 年度 一般社団法人日本建設機械施工協会研究開発助成 助成対象研究開発決定のお知らせ	森川 博邦
106	部会報告	除雪機械の変遷 (その 15) 凍結防止剤散布車 (1)	除雪機械技術委員会
112	新機種紹介	機関誌編集委員会	122 統 計 建設工事受注額・建設機械受注額の推移
116	統 計	平成 27 年 建設業の業況 機関誌編集委員会	機関誌編集委員会
			123 行事一覽 (2015 年 12 月)
			126 編集後記 久保・齋藤

### ◇表紙写真説明◇

#### 日本万国博覧会記念公園の 40 年間にわたる自然再生の取組み

写真提供：大阪府 日本万国博覧会記念公園事務所

1970 年に開催された日本万国博覧会 (大阪万博) の跡地は、万博を記念する緑に包まれた公園 (日本万国博

覧会記念公園) とするという基本方針のもと、森づくりが開始された。それから 40 数年、土壌の問題など様々な課題をその都度解決しながら取り組み、表紙写真のように森も充実しかけている。しかし、森としてはまだまだ未熟で、現在も大阪府では目標である生物多様な安定した森を目指して、取り組みを行っている。